

経済・金融 フラッシュ

ブラジル GDP(2022年7-9月期) —けん引役の消費・投資がいずれも減速

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

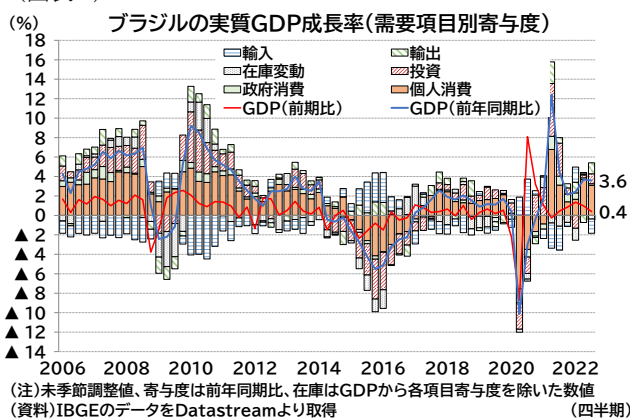
1. 結果の概要: プラス成長を維持しているが、伸び率は減速

12月1日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

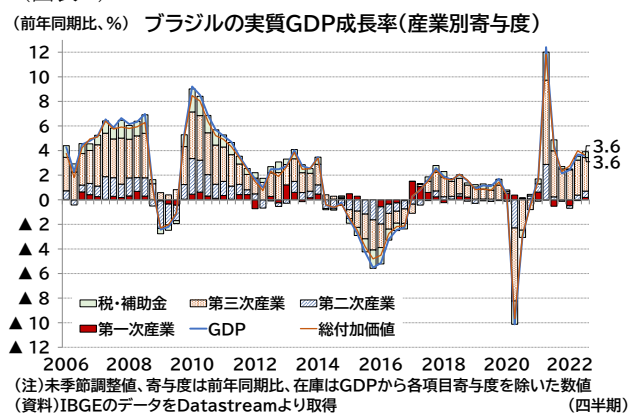
【実質GDP成長率（2022年7-9月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は3.6%、市場予想¹（3.7%）を下回り、前期（3.7%）からやや減速した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は0.4%、予想（0.6%）を下回り、前期（1.0%）から減速した。

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細: 消費・投資いずれも減速

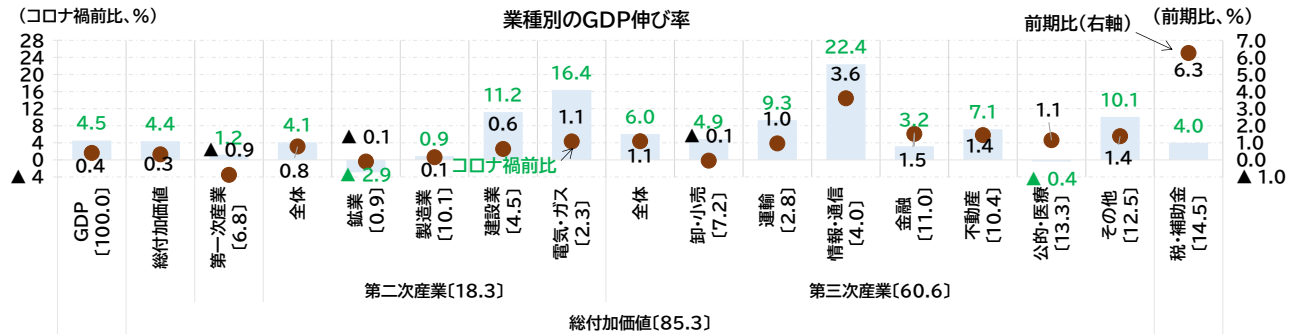
22年7-9月期の実質GDP伸び率は前期比0.4%（季節調整値、年率換算1.6%）で、5四半期でのプラス成長を記録した。ただし、伸び率は22年1-3月期をピークに減速している（22年1-3月期:1.3%、4-6月期:1.0%、7-9月期:0.4%）。22年7-9月期のコロナ禍前（19年10-12月期）比は4.5%となった（図表4・5）。

成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が1.0%（前期:2.1%）、政府消費が1.3%（前期:▲0.9%）、投資2.8%（前期:3.8%）、輸出が3.6%（前期:▲2.8%）、輸入が5.8%（前期:8.7%）となった。4-6月期に続き内需（消費や投資）が成長のけん引役となったが、伸び率は

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

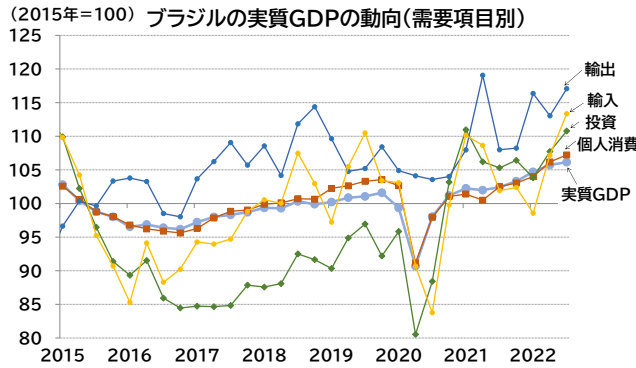
いずれも減速した。10月総選挙を前に8月から低所得者向けの給付額を400レアルから600レアルに増額するなど家計支援策も講じられたが、高インフレ・高金利による景気鈍化圧力も強まっていると見られる。なお、コロナ禍前との対比では、個人消費が3.5%、政府消費が2.8%、投資が20.2%、輸出が8.0%、輸入が9.6%で投資の力強さが目立つ(図表4)。

(図表3)



(注)カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値(データラベル)は黒が前期比、緑がコロナ禍前比の数値(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

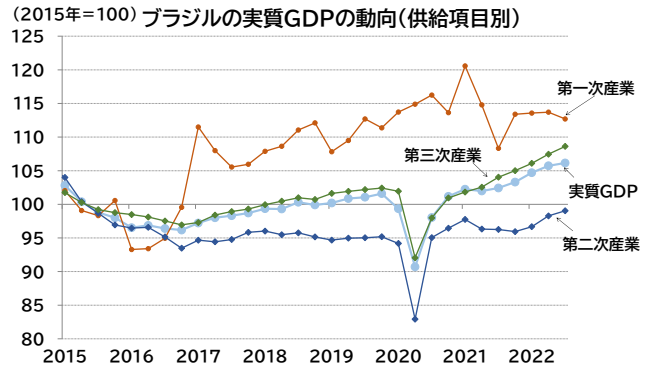
(図表4)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(四半期)

(図表5)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

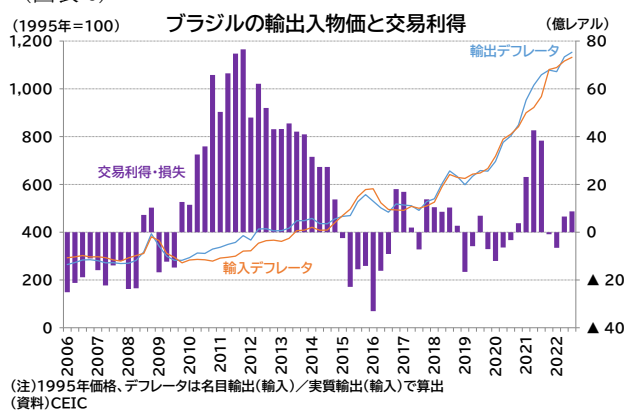
(四半期)

産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると(図表3・5)、第一次産業は、関連作物(サトウキビ・キャッサバ等)の生産減の影響を受けて前期比▲0.9%(前期:0.1%)となった。第二次産業では、水不足の緩和で4月以降の電気料金を引き下げたことが引き続き生産の押し上げ材料となり、同0.8%(前期:1.7%)だった。第三次産業も同1.1%(前期:1.3%)と引き続き高めの伸び率を記録した。第三次産業では情報通信(前期比3.6%)が高成長を記録する一方、モノからサービス需要へのシフトにより卸・小売(前期比▲0.1%)は小幅ながらマイナスに転じた。

22年7-9月期の名目成長率は前年同期比12.8%(前期:13.3%)となった。名目と実質成長率の差(デフレータに相当)は9.2%(前期:9.6%)と低下している。また、7-9月期の交易条件はわずかではあるが、4-6月期に続きやや改善した(図表6)。

ブラジルでは、10月の大統領選挙で左派のルラ氏が現職のボルソナロ氏を破った。今後は来年に発足する新政権の舵取りも注目される。

(図表6)



(注)1995年価格、デフレータは名目輸出(輸入)/実質輸出(輸入)で算出(資料)CEIC

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。